

都道府県・ 指定都市番号	24	都道府県・ 指定都市名	三重県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	総合的な学習の時間
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するために、地域を支え、地域の発展に貢献する人材を育成する「地域貢献夢プログラム」を核に据えた、「総合的な学習の時間」の学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	み え け ん り つ う え の こ う と う が っ こ う 三重県立上野高等学校（878 人）				
所在地（電話番号）	〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内 107 番地 0595-21-2551				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.mie-c.ed.jp/hueno/				
研究のキーワード	地域貢献, 思考力, 表現・発信力				
研究結果のポイント	<p>◆ 地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 伊賀の地域資源（人、もの、歴史、自然、文化、産業等）に対する興味関心を深化させることができた。 ● 地域を支え、地域の発展に貢献する人材を育成するという観点については、今後継続した取組が必要となる。 <p>◆ 思考力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 集めた情報を基に、他の生徒の価値観にも触れながら、様々な課題に対して、多面的多角的に考える力を育成することができた。 <p>◆ 表現・発信力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手に自分の言葉で考えや思いを伝えるための論理的かつ具体的な表現力を育成することができた。 				

1 研究主題等

(1) 研究主題

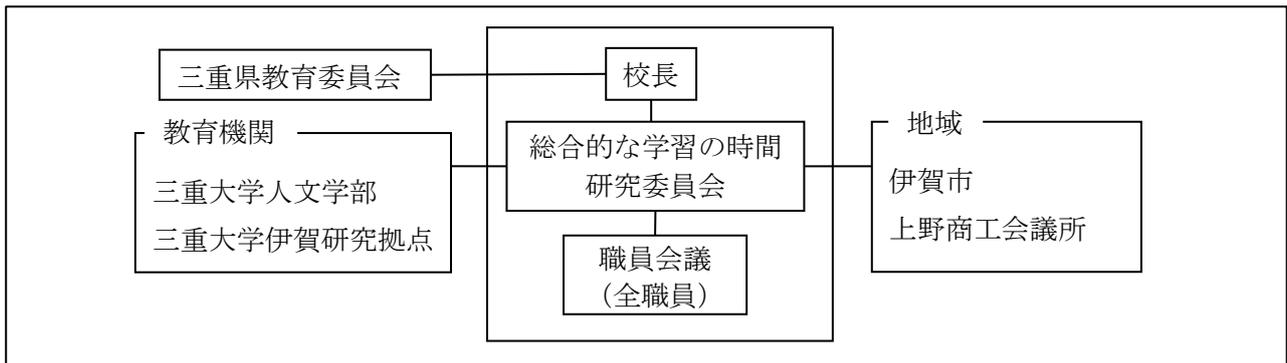
地域を支え、地域の発展に貢献する人材を育成する「地域貢献夢プログラム」を核に据えた「総合的な学習の時間」の実践研究

(2) 研究主題設定の理由

本校の立地する三重県伊賀地域では近年、少子高齢化・過疎化が進み、小・中・高等学校の統廃合が続くなど、学校を取り巻く環境が激変している。このような中、伝統ある地域の中核校として、地域に戻り地域で活躍する有為な人材を育成することが強く求められている。

このようなニーズを踏まえ、大学等への進学に力点を置いてきたこれまでの学習指導・進路指導について、地域課題解決型キャリア教育の観点から改善を図るとともに、地域を支え、地域の発展に貢献する人間としての在り方・生き方を探究する計画的・系統的な学習活動の充実を図る必要があると考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成28年度	4月	研究計画の立案検討 * 「総合的な学習の時間」研究委員会
	6月	地域社会の第一線で活躍する専門的職業人（本校卒業生）による講演会
	7月	「地域貢献夢プログラム」グループ別集会
	10月	地域貢献夢プログラム（地域学習フィールドワーク）
	11月	学びの発表会「地域貢献夢プログラム ポスターセッション」
	1月	大学教員による講演会「忍者学」
	2月	地域社会の第一線で活躍する専門的文化人（本校卒業生）による講演会「伊賀学」
	2月	伊賀学検定受験
	3月	年間の反省 * 「総合的な学習の時間」研究委員会
	平成29年度	4月
5月		IGABITO 育成プロジェクト推進プラン作成統括責任者による講演会【1, 2年】
9月		地域プロデュース中間発表会【1, 2年】
10月		探究学習の進め方～「地域プロデュース案」作成についての講演会【2年】
10月		地域貢献夢プログラム（地域学習フィールドワーク）【1年】
11月		学びの発表会「地域貢献夢プログラム ポスターセッション」【1年】
12月		地域社会の第一線で活躍する専門的文化人による講演会「伊賀学」【1年】
1月		大学教員による講演会「忍者学」【1年】
2月		地域プロデュース発表会（クラス別「地域プロデュース案」コンテスト）【2年】
2月		伊賀学検定受験【1年】
3月	年間の反省 * 「総合的な学習の時間」研究委員会	

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

◆ 地域貢献

探究活動の流れを拡充し、探究課題に対する生徒の問いをより深化させるとともに、伊賀地域を活性化するという地域貢献のカラーを出すため、通年で伊賀市を始めとする関係機関と連携し、地域プロデュースに取り組む。

◆ 思考力

伊賀市等の関係機関との連携を強化し、地域の課題解決に向けた情報収集能力の育成や、新たな価値を創造したり話題を深めたりする効果的な学習・指導法を研究する。

◆ 表現・発信力

より質の高いプレゼンテーションを行うための文章の作成方法や基本構造、言語表現の仕方等について整理し、表現・情報発信力を向上させる指導法を研究する。

(2) 具体的な研究活動

◆ 地域貢献

1 学年において、学校図書館を利用した文献調査、フィールドワークでのインタビュー調査を探究的・協働的な学習をとおして実践し、ポスターセッションにより伊賀地域の研究発信を行った。学習を進める過程で、伊賀地域の基本的な知識の習得を行い、伊賀学検定受験をとおして知識・理解の定着を図った。

2 学年においては年間を通して、伊賀市を始めとする関係機関と連携し、地域プロデュースに取り組んだ。伊賀地域の良さや課題を考えた後、目標を設定し、アイデアや具体策をグループで相談しながらプロデュース案作成に向け探究を深めた。中間発表会を経て練り上げた各クラスのプロデュース企画案を、地域の企業や行政の担当者に対して提案した。

◆ 思考力

発達の段階に応じて、学校及び市の図書館資料やウェブ上のデータ、聞き取りの内容等様々な資料から自分の設定したテーマに即して必要な情報を取り出し、目的に応じて文章を引用・活用するなどして自分の考えをまとめる過程を重視した。

1 学年においては、伊賀地域の研究発信で取り扱うテーマに関連して、グループで設定したテーマに基づき、フィールドワーク等を通して情報収集を行い、整理・分析を行った。

2 学年の地域プロデュースでは、地域の現状に対する理解に基づきテーマを設定し、仮説を立て、様々な調査の手法を活用・発揮しながら研究に取り組んだ。

◆ 表現・発信力

1 学年においては、フィールドワーク終了後、新たに生じた課題や収集した情報等を整理・分析し、伊賀地域における課題の解決に向けた具体的な提案をまとめ、ポスターセッション形式で発表を行った。経験したことを基に、自分の言葉で提案するなど説得力のある発表が見られた。

2 学年においては、各クラスのプロデュース案を発表する中間発表会を設定した。そこで明らかになった課題を基に、内容について探究を深めるとともに、より質の高いプレゼンテーションを行うための工夫・改善に取り組み、最後の発表会に臨んだ。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

◆ 地域貢献

○成果 身近な地域資源を題材とした学習を一定期間行うことで、伊賀の地域資源(人、もの、歴史、自然、文化、産業等)に対する興味関心を深化させることができた。
また、企業や行政等との関係性が強まったことで、今後の教育課程の実施にあたり、一層の連携が期待できる。

●課題 主体的に学習を行う態度や、地域への関心を高めることができた一方で、将来地域

に戻り、地域の発展に貢献するという意識の向上については、自己肯定感を高める取組が一層必要であると考えられる。

自己評価アンケート結果（※ 数字は、前者が昨年度、後者が今年度の1年生の11月調査）

- ・ 「自分の力で調べたり活動したりする」 81.9 %→91.6 % (9.7%上昇)
- ・ 「地域の出来事に関心がある」 57.2 %→59.6 % (2.4%上昇)
- ・ 「地域や社会から必要とされている」 41.7 %→39.5 % (2.2%下降)

◆ 思考力

○成果 身近な地域資源を題材とした学習を一定期間行うことで、他の生徒の価値観を知りつつ社会とも関わる協働的な学びを通して、課題について多面的多角的に考える力を育成することができた。

●課題 生徒が様々な課題に対して、まわりの人と積極的に関わりながら、思考を深められるような指導方法の一層の研究が求められる。

自己評価アンケート結果（※ 数字は、前者が4月調査、後者が11月調査）

- ・ 「集めた情報の関連性を考え整理できる。」 70.0 %→82.0 % (12.0%上昇)
- ・ 「課題に対していろいろな考えを持つ。」 69.6 %→79.8 % (10.2%上昇)
- ・ 「物事をすすめる時に見通しを持った計画を立てる。」 60.4 %→68.0 % (7.6%上昇)
- ・ 「自分の力で調べたり活動したりする。」 85.5 %→91.6 % (6.1%上昇)

◆ 表現・発信力

○成果 年間を通じて、自らの学びを発表できる機会を多く設定したことにより、抵抗感なく人前で積極的に発言しようとする生徒が増えた。

●課題 フィールドワーク等で得た経験や知識を整理・分析し、他者に対して自分の言葉で論理的かつ具体的に説明する力をさらに高めていくことが求められる。

自己評価アンケート結果（※ 数字は、前者が4月調査、後者が11月調査）

- ・ 「自分の考えをわかりやすく伝える工夫ができる。」 46.3 %→51.7 % (5.4%上昇)
- ・ 「自分の考えを、自信をもって言える。」 51.3 %→54.2 % (2.9%上昇)

4 今後の取組

地域を支え、地域の発展に貢献する人材を育成するために、「自分にも、人や社会のためにできることがある」という「自己肯定感」のなかでも対人的・対社会的側面（「自己有用感」）を最も重要な資質・能力の一つに位置付け、その育成のために、2年間取り組んできた教育課程の一層の工夫改善を進め、総合的な学習の時間の学習・指導方法の改善に向けた取組を深めていきたい。

具体的には、フィールドワークを実施するにあたり、事前にそのねらいを主な訪問先と十分に共有しておくとともに、生徒がインタビューを行う際に、地域の人々の思いを引き出せるような内容となるよう指導をしていく予定である。また、自分のアイデアが採用されて実現するかもしれないという期待感がモチベーションとなり、アイデアを次々と出す生徒がいたことから、伊賀市との連携を今後も続け、生徒の提案が地域の人々や行政から評価を受けられる機会を引き続き用意していきたい。